

野洲川河川敷のバッタ調査

少し前になりますが2015年度末に予定された滋賀県レッドデータブック「滋賀県で大切にすべき野生生物」の改訂に先立ち、2015年9月14日に3名(滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会バッタ目担当)が、野洲川河川敷を下流の守山市から上・中流の甲賀市まで1日ばかりで数カ所の現地調査をしました。

午前守山市の河川敷に降りたところ、植物に被われた部分ではヒメコオロギ(バッタ目コオロギ科)の鳴き声がいへん多く聞かれ、生息密度が高いことが分かりました。ただ、体長が1cmに満たない小型で褐色、しかも密に茂った草むらの地際に生息するため、とても採集困難です。

植物が少ない砂礫地ではカワラバッタ(バッタ目バッタ科)を何匹か目撃しました。飛ばば後羽根の青色が目立つので、同じような場所に生息する同じ科のトノサマバッタやクルマバッタモドキなどとの違いは一目瞭然です。図3は1994年に筆者が野洲川河川敷で採集した個体で、広げた右うしろ羽根の基方半分が青色です。

続いて湖南市から水口町で計3箇所ほど調査した後、夕方、土山町の河川敷に降りました。しばらくして3名のひとり市川顕彦氏(日本直翅類学会)が向こう岸からカワラスズ(バッタ目ヒバリモドキ科)らしい鳴き声が聞こえると言われたので、近くの橋を渡って対岸の河川敷に降り、鳴き声の方向へゆっくり近づきました。市川氏がいくつもの石ころを一つずつ丁寧に持ち上げているうちに、ピョンと飛び出して数回跳ねるもなんとか捕獲でき、カワラスズ(幼虫)と確認できました。図1は捕獲前に石ころを取り除く市川氏(手前)と構える高石清治氏(滋賀むしの会)です。この直後に高石氏がもう1匹雄成虫を捕獲し、これら2匹を生かしたまま自宅に持ち帰られました。その後、幼虫の方は同月23日に羽化し雄成虫になったとのことです(高石、2015)。このほか、付近の河川敷を歩くとカワラバッタが結構見られ、夕日に照らされる個体を撮影することができました(図2)。

なお、当市レッドリスト2022年版においてカワラバッタは絶滅危惧増大種に、カワラスズは要注目種に指定されています。また、滋賀県レッドデータ2020年版においては前者は希少種に、後者とヒメコオロギは要注目種に指定されています。

引用文献

高石清治. 2015. 滋賀県初記録種いくつか. *Came虫* 184: 14-15.

南 尊演 (野洲市在住)



図1. 調査風景(筆者撮影)
甲賀市内の野洲川河原で



図2. カワラバッタ
甲賀市甲賀町



図3. カワラバッタ ♂
野洲市野洲 1994. 8. 22